

## 事業者向け 放課後等デイサービス自己評価表の結果 (三永)

例年同様、事業所職員に対する施設についてのアンケートを行い、結果を簡単に取り纏めましたので、併せてご報告申し上げます。本年度で4回目の集計となりました。職員の入替わりなどはありませんでしたが、結果としては例年同様の結果となりました。また、多くの職員から改善点などが挙げられていましたので、項目別に沿ってご報告致します。

### 【環境・体制設備】

利用定員と指導訓室等のスペースの関係性および職員の配置数に関しては、玄関周りのみ手すりのない段差があるため、バリアフリー化<sup>※参考資料の③をご参照願います</sup>については「いいえ」となっていますが、活動スペースについてはワンフロアかつバリアフリースペースでの支援を行っているため現時点で困っている利用者の方はいらっしゃいません。今後については、必要に応じて改善を図っていく方向です。

また、活動スペースについては100㎡以上を確保しながら、構造化を図りわかりやすい空間作りを行っており、ゆったりとした活動スペースにて支援を展開しています。

さらに、2～3人に対して一人の職員を配置していることから、こちらについても基準値を超えているという点でも適切であると認識しています。

### 【業務改善】

⑦<sup>※参考資料の⑦をご参照願います</sup>項目以外はすべての職員からの回答が「はい」となっています。

「第三者による外部評価を行う」という点においては、全ての職員で「いいえ」の回答ですが、理由として現時点では、第三者による外部評価の必要性を感じておらず、保護者様の意向を反映しつつ公的機関や組織との連携によって業務の改善を図っており、現状の体制にて支障が生じていないためです。

上述の項目以外については、アンケートを基に日々会議を積み重ね、保護者様の意向を検討しつつ、業務改善を図っています。また、評価表の結果については、ホームページでの公開と同時に保護者様へ紙面を配布する形式で周知しています。

職員研修については、コロナ禍ということもあり時にはオンライン研修を利用した外部研修および月一回以上所内の研修を行っています。これらのことに関しては、すべての職員間で共通意識をもって取り組んでいることから、業務改善について適切であると考えております。

### 【適切な支援の提供】

すべての項目において、全ての職員が「はい」という回答を得られていることから、各項目に応じた適切な支援を提供できているものと考えています。

昨年度までと同様の形ではあるが、新規利用児童に対しては、利用契約の段階で保護者様のご協力を得て利用児童の情報収集を行い、ケース会議にて情報の分析や支援計画を検討している。さらに利用児童の特長を項目別にチェックし、どの職員からみても特徴が掴みやすい形式のツール利用している。また、利用者児童に対しては、保護者様へのモニタリングを基にケース会議を行い、計画を作成しており、作成した計画を基に相談員の方とも密に連携を取っている。その上で、日ごろから各職員の見解を重ねると共に日常的な支援での気づきを含めて視野を広げ、個々に応

2021年6月30日

じた目標を定めて集団・個別支援を組み込んだ計画を立てるよう心がけている。さらにモニタリングについては年二回モニタリングシートにて聞き取りを行い計画の見直しに活用している。

活動プログラムにおいては、『集団行動』を主軸とし、プログラム内容についてはガイドラインを参考にチームにて相談を行うと同時にレクリエーション会議を行いながら、固定化しないよう工夫しながらプログラムを組み立てている。さらに、平日・休日・長期休暇の支援についてはその日の支援時間や天候などを加味した支援内容を設定し、課題を定め、展開している。

支援開始前には、支援プログラムや個々の支援方法について情報共有し、役割分担を行って支援に当たっているおり、支援終了後には、当日の活動内容や利用児童の様子を報告し、状況に応じて翌日以降の支援に繋がられるよう振り返りや反省を行いながら、対応についてミーティングを実施している。

日々の活動報告については記録への記入を行うことで情報を共有し、支援改善に活用している。

### 【関係機関や保護者との連携】

②および④※参考資料の②と④項目をご参照願います項目で「いいえ」となっており、該当項目以外ではすべて「はい」という回答でした。

サービス担当者会議には、必ず管理者もしくは児童発達管理責任者が出席している。

学校との情報共有においては、基本的には保護者様を介して行うようにしているが、イレギュラーが生じた際には直接学校（特に担任の先生）と学校送迎時等により適宜連携をとりながら、適切に行っている。

就学前に利用していた療育機関や幼稚園・保育所には保護者様を介して情報共有を必要に応じて行うことができている。

放課後児童クラブ等との交流については実施していないが、地域の公園外出の利用時に自然な形で交流することはあります。

福祉協議会には、管理者が毎回出席するように調整しており、やむを得ず管理者が出席できない場合には極力代理のものが出席するなどの配慮を行っている。

保護者様とは、日々の連絡帳を主として連携をとり、その他送迎時や電話対応・個別相談にて、日常的に児童の状況や課題について共通理解を深めている。さらに必要に応じて、個別でペアレントトレーニングや助言を行っている。

最後に「いいえ」となっていた項目については、医療的なケアが必要な児童を受け入れていないため、実績はありません。しかしながら、服薬を行っている児童についてはその様子を注視し、異変があれば速やかに保護者様にご報告を行いながら連携をとっています。また、障害福祉サービス事業所へと移行する対象者がいないため、情報提供等に関しての実績はありませんが、必要に応じて情報提供可能な状態は保持している。参考情報としてではあるが、小学校を卒業し時間の都合上利用が出来なくなった利用者については、必要に応じて相談を受け助言を行っている。

### 【保護者への説明責任等】

③⑦※参考資料の③項目をご参照願います項目については「いいえ」、それ以外のすべての項目において「はい」にチェックが入っていた。

契約時、運営規定や支援内容、利用者負担については個別で時間を設けており、変更等が生じ

た場合にはその都度説明の時間を割くようにしている。

保護者様からの悩み等については、個別相談を積極的に行うと共に電話相談を随時行っている。

保護者会については年1回以上定期開催するよう計画を行っているが、昨年についてはコロナ禍のため開催の是非を保護者様にアンケートにて問い、その結果に沿って中止させていただいた。その代替措置として、書面にて活動報告等を配布させていただいた。

事業所として保護者間での交流を深めるきっかけ作りとして活用して頂きたいという方向性は変わっていない。

活動内容の更新はホームページやWebツール、2019年度より定期的なお便りを発行するなど多様な方法で行っており、常に新しい情報提供を行っている。また、どのご家庭とも意思の疎通が行えるようにここに合わせた伝達ツールを使用している。

まだ苦情をいただいたことは無いが、やむを得ず生じた場合には苦情解決窓口を設け、迅速に対応できるよう努めている。

個人情報については、すべて鍵付き書庫に収納・管理し、取り扱いには十分気をつけており、見学にいらっしゃる外部の方に対しても、情報漏えい防止対策を講じている。

最後に全職員から「いいえ」と回答された37の地域住民の招待等については、基本事項としてあいさつをしっかり行うことで最低限の交流はある。しかしながら、プライバシーへの配慮もあり事業所へ招待するといった行事を行うことについては、現在は行っていない。依然として検討中である。

#### 【非常時の対応】

すべての項目について、対応しているという認識が職員間でしっかりと存在している。契約時に詳しく説明を行うと共にマニュアルを配布している。そのマニュアルに情報の更新があった際には、速やかに保護者様へとお知らせするよう配慮している。職員間でも共通理解を行うよう努めている。

また、職員のための訓練および長期休暇時には消防署のご協力の下、児童も含めた実践的な訓練を行うことで、非常時においても冷静に行動できるよう心がけている。

虐待防止については、外部の研修会への積極的な参加を促すと共に多くの職員が研修に参加している実績がある。すべての職員が明確な意識を持って職務に当たっている。

身体拘束については本人または他者に危険がおよぶ場合のみと決定し、保護者様への説明を行い、同意を得ている。

食物アレルギー有無については、定期的に情報収集を行いながら情報の更新を行っており、医師の指示書を基づいて除去している。現時点でトラブルは生じていない。

ヒヤリハット事例集については、報告書を作成すると同時にその報告書に基づいた会議を行い、改善へとつなげている。

## 参考資料

		チェック項目		チェック項目	
環境・体制整備	①	利用店員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	関係機関や保護者との連携	⑳	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか
	②	職員の配置数は適切であるか		㉑	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		㉒	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	保護者への説明責任等	㉓	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか		㉔	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか		㉕	日ごろから子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を行っているか
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		㉖	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか		㉗	運営規定、支援内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか
	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか		㉘	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言を支援を行っているか
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		㉙	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか		㉚	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか
適切な支援の提供	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	非常時の対応	㉛	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか		㉜	個人情報に十分注意しているか
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか		㉝	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか		㉞	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業所運営を図っているか
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われて支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか		㉟	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか		㊱	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか		㊲	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか		㊳	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通したふさわしい者が参画しているか		㊴	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか
	㉑	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか		㊵	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか
㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか				